

ヨハネの手紙第一 第2章 16節

「すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。」

青空の下、透き通るような青の海原、そして白い砂浜を散歩する。風は爽やか、緑は新鮮に輝く。ふと、足元を見ると、透明な青の風船のようなものが白い砂の上に横たわっている。思わず手を伸ばし、拾い上げてみたくなる可愛しさがある。実際その周辺には、あちらこちらに白いサンゴの破片が散らばっている。これも拾い上げ、この砂浜に来たしとする。

ところが、あの青い風船のようなものだが、目には可愛らしく、きれいに見えるけれども、かなり強い毒性をおびているらしい。安易に拾い上げようものならば、触れたところが途端に炎症を起こすことである。知らなければとんだ被害を受けるところであった。青空の青さ、海の清らかさ、風の心地よさにうかれ、見た目の可愛さで浜辺の風船を拾えは大変なことになる。

肉眼で、美しい空、海、緑を見る事ができる。他方、肉の欲、つまり人の欲が支配する目で見るときは大変なことが起こる。表面的美しさだけに見とれ、背後にある危険を見落とすことが起こる。欲の目で見始めると、ことの真実を見落とし、とんでもないことになる。青い風船のような生き物のように。

2025年2月26日